

平成30年11月19日
(2018年)

保護者の皆さまへ

吹田市立千里第一小学校
校長 宮前 桂子

平成30年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成30年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

●国語<概要>

◎国語 A (『知識』に関する問題)

- ・書くことの領域は全国値を上回っている。
- ・「読むこと」「話すこと・聞くこと」は、ほぼ全国値である。
- ・短答式の問題は無回答率が全国値よりも低い。

◎国語 B (『知識の活用』に関する問題)

- ・話す聞く領域では、質問の意図を捉えて聞くことは全国値を上回っている。
- ・相手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして、考えをまとめたりすることは課題がみられる。

●国語<各領域における成果と課題、指導改善のポイント>

話すこと・聞くこと

- ・「話し合いの参加者として、質問の意図を捉える」は全国値を上回っている。

- ・「相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す」は全国値とほぼ同じである。

書くこと

- ・「自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える。」は、全国値を上回っている。
- ・「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」は課題がある。

読むこと

- ・「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える」は全国値をやや上回っている。
- ・「目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」は課題がある。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うは、全国値をやや上回っている。
- ・主述の関係などに注意して、文を正しく書くには課題がみられる。

●国語科における成果と今後の改善点について

- 表現力については、ペア学習やグループ学習の成果がでていると考えられます。ただ、言語についての知識に課題がみられるので、授業における指導のみならず朝の学習や家庭学習でも継続して取り組んでいきます。
- 話すこと・聞くことについては、質問の意図を捉えることはできているが、相手の意図を聞き、自分の意見と比べながら、考えをまとめることに課題がみられるので、授業の中で、自分の意見や考えをまとめて伝える時間を設けることで力をつけていきます。
- 書くことについては、目的や意図に応じて、自分の考えを書くことや、自分が選択した理由を説明することに課題がみられるので、授業の中で振り返りを書かせる等、書く経験を増やしていきます。
- 読むことについては、文章の量によっては内容を的確におさえながら読み進めることに課題がみられるので、様々な文章を読む経験を積み重ね自分の考えや思いをまとめられるようにしていきます。

●算数<概要>

◎算数A（「知識」に関する問題）

- ・数と計算は、全国値を上回っている。
- ・量と測定は、全国値を上回っている。
- ・数量関係や図形についての知識・理解と技能は、全国値を上回っている。

◎算数 B（「活用」に関する問題）

- ・全体として全国値を上回っている。
- ・全体的に無回答率は全国値よりも低い。

数と計算

- ・「除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している」は全国値を上回っている。
- ・「1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し数直線上に表すことができる」は全国値を大きく上回っているが、「除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している」には課題がみられる。
- ・折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる問題では全国値を上回っている。

量と測定

- ・「単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している」には課題がみられる。
- ・「分度器を用いて 180° よりも大きい角の大きさを求めることができる」は全国値を上回っている。
- ・示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる問題では、全国値を上回っている。

図形

- ・「直径の長さと同周の長さの関係について理解している」や「円周率の意味について理解している」は全国値を上回っている。
- ・「示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現することができる」は全国値を上回っている。
- ・図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述できる問題では、全国値を上回っている。

数量関係

- ・「百分率を求めることができる」は全国値を上回っている。
- ・棒グラフと帯グラフから読み取り、適切に判断する問題では、全国値を上回っている。
- ・メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈しそれを記述する問題では、全国値を下回っている。

●算数科における成果と今後の改善点について

- 数量や図形についての技能は全国値を上回っており、算数を得意としている児童が多いと考えられます。
- 図形などの作業は、習熟度別少人数指導で学習することで習得できたと考えられます。今後も個に応じた指導を継続していきます。
- 「1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している」「単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している」に課題がみられるので、問題ごとに1あたり量を確認し、図や数直線、言葉等で表す活動を増やし正しく立式できるようにしていきます。
- 解き方がわからないときでも諦めずに取り組めるよう、これからも基礎・基本の定着を目指し、習熟度別少人数指導、朝の学習、反復練習等に取り組んでいきます。
- 記述力を向上するため、めあてに対する振り返りをノートに書いた後、交流する活動を全教育活動の中で行い、考えを深められるようにしていきます。

●理科<概要>

◎理科 A (『知識』に関する問題)

- ・物質に関しては全国値を上回っている。
- ・エネルギーに関しては全国値を下回っている。

◎理科 B (『活用』に関する問題)

- ・「生命」については全国値をやや下回っている。
- ・「地球」については全国値を下回っている。

A区分 物質

- ・「より妥当な考えを作り出すために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できる」は、全国値とほぼ同じである。
- ・「ろ過の適切な操作方法を身に付けている」は全国値を上回っている。

A区分 エネルギー

- ・電流の流れ方の実験から正しい考察を選ぶことに課題がある。
- ・「太陽の一日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる」は全国値を下回っている。

B区分 生命

- ・「調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できる」は、全国値を上回っている。
- ・「人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる」は全国値を下回っている。

B区分 地球

- ・堆積作用について科学的な言葉を理解することに課題がある。
- ・複数の情報を関係づけながら考察することは全国値とほぼ同じである。

理科における成果と今後の改善点について

- 適切に器具の操作しながら、実験や観察を行うことができます。さらに実験や観察の活動を取り入れた楽しく、わかりやすい授業づくりをめざします。
- 実験や観察の結果から考察するときに言葉の使い方が不十分であり、科学的思考力の向上とともに基本的な概念についても定着を図るために、ワークシートに必要な言葉を書き込んだり、ミニテストで基本的事項を確認したりします。
- 科学的思考力の向上については、単に結果だけから考えるのではなく、既習事項などヒントになる複数のデータを参考にしながら読み取れるような指導を行っていきます。
- 「ものがどのように変化したのか」という「物質」の考え方は理解できています。しかし、「エネルギー」の考え方である「ものがどれくらい変化したのか」という理解が不十分なので、実験を通して数量的な結果から考察することを大切にして科学的な思考力向上を目指します。
- 「生命」「地球」の学習については、自然観察や映像資料などを活用して、授業の改善を行い、理科が生活に役立っていることを実感できるようにしていきます。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・自分には、よいところがあると思っている児童や先生はあなたのよいところを認められていると思っている児童は全国値を上回っている。
- ・将来の夢や目標を持っている児童は、全国値を下回っている。
- ・家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している児童は、大変多いが、自分で計画を立てて勉強することにおいては、課題がみられる。
- ・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上勉強をしている児童は、全国値を上回っている。

【教科・学習について】

- ・算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う児童は全国値を上回っている。
- ・算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考える児童は全国値を上回っている。
- ・算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている児童は全国値を上回っている。
- ・算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えることには、課題がみられる。
- ・理科の授業では、理科室で観察や実験を週 1 回以上行っている項目は、全国値を上回っている。
- ・観察や実験の結果からどのようなことがわかったのか考えている児童は全国値とほぼ同じである。
- ・自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある児童は全国値を下回っている。
- ・理科の授業で学習したことは、普段の生活の中で活用できないか考えている児童や将来社会に出たときに役に立つと思っている児童は全国値を下回っている。

3. 今後の取り組みと改善

教科に関する結果を踏まえ、本校では、児童にとって「わかりやすい授業」「楽しい授業」をめざして、講師を招聘し研究をすすめてまいります。日々の授業の中での「振り返り」を重視し、振り返りを行うことで、子どもたちの思考力を高めるとともに、書く力の向上に努めます。自己肯定感・自尊感情は高い児童が多い反面、自分のことを自分で決めることが苦手な児童もみられます。見通しをたて、考え、判断する場面や意見を伝え合う活動を多く取り入れ、自信をもって判断できる児童の育成に努めます。

また、今回算数では、全国値を大きく上回る結果が出ました。それは、3年生から6年生で習熟度別少人数指導を実施したことの成果が表れてきたと考えられます。今後も、習熟度別少人数指導の充実や ICT を効果的に取り入れるなどの指導方法の工夫・改善により一層努めます。

理科においては、観察や実験を行っている回数は全国値を上回っており、体験を取り入れた学習活動が行われています。しかし、生活や社会との関連を意識することに課題がみられるので、学習の中で日常的な出来事を取り上げたりキャリア教育の観点を取り入れたりするなど授業の改善に努めます。

引き続き、家庭や地域の協力を得て、最後まであきらめず、他人を尊重する気持ちや態度を育めるような学校づくりをめざしてまいります。よろしくお願いいたします。